

震災の慰霊碑建立

阿部社長らが見届ける

普門寺で



陸前高田市米崎町に

ある普門寺(熊谷光洋住職)の共同墓地に26日、神奈川県川崎市の(株)阿部石材店(阿部勝社長)から贈呈された石碑が建てられた。東日本大震災による犠牲者を慰霊するためのもので、同地へ訪れた阿部社長と息子の徹専務が設置を見届けた。

阿部社長は「石材店としてできることを」と昨年、川崎市に被災慰霊碑建立を見届けた阿部社長(左)と徹専務(右)普門寺

地への慰霊碑寄贈を提案。同市は支援活動を通じ交流のあった陸前高田市と連絡を取り、身元不明の遺骨が安置されている同寺への建立を決めた。

同寺は現在市から15柱の遺骨を預かっており、安置場所としてこのほど、寺の裏側にあるおおよそ480平方メートルの土地を貸し出した。共同墓地は年内に完成を予定し地元業者によって工事が進められており、同碑の建立も計画に加えられた。

石碑は天童御影石と呼ばれる高級石材を使った、高さ約1・8メートル、幅30センチの半円形。頑丈につくられた縦1・3メートル、横2・2メートルの石枠の中に置かれ、

周りには骨壺を入れる25個の石枠が用意され設置されることとなっている。

阿部社長は「住民の方々はさまざまなお抱えていると思う。この碑が震災の風化防止につながり、見た人に感じてもらうことを引き継いでいってほしい」と願いを込めた。

慰霊碑の除幕は来年3月を予定している。